



今日の安全研修も
楽しみです！
師匠！
今日のテーマは
「過積載」ですね
うちは大丈夫かと
思いますけど…
師匠…

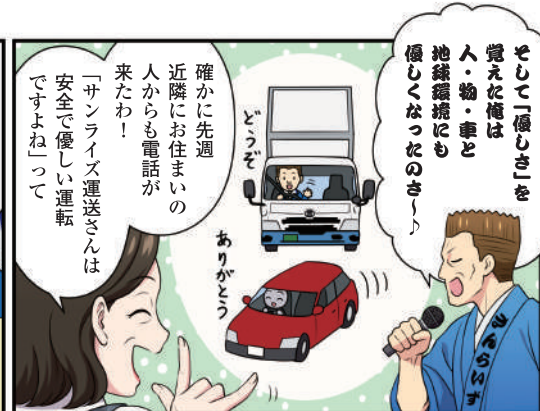
サンライズ運送株式会社 月次研修 資料

過積載の危険性

貨物自動車運送事業者が事業用自動車の運転者に対して行う
指導及び監督の指針(国土交通省告示第1366号)に準じた内容

2025年8月20日

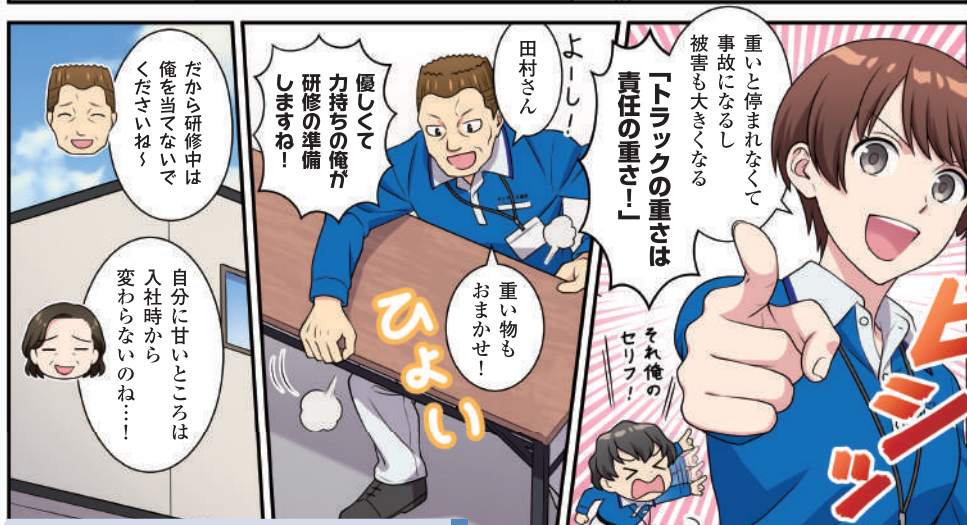
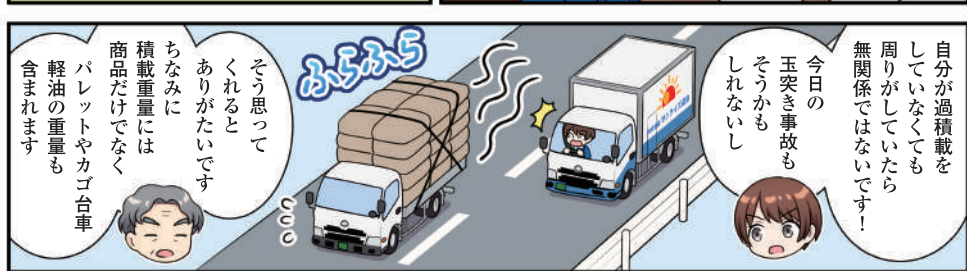
ProdeCube



確かに先週
近隣にお住まいの
人からも電話が
来たわ！
「サンライズ運送さんは
安全で優しい運転
ですよ」って

どうぞ
ありがとう

そして「優しさ」を
覚えた俺は
人・物・車と
地盤環境にも
優しくなったのさ〜



自分が過積載を
していないでも
周りがしていなら
無関係ではないです！
今日の
玉突き事故も
そうかも
しれないし

そう思って
くれると
ありがたいです
ちなみに
積載重量には
商品だけでなく
パレットやカゴ台車
含まれます

ひょい

重い物も
おまかせ！

田村さん

優しくて
力持てる俺が
研修の準備
しますね！

だから研修中は
俺を当てないで
くださいな〜

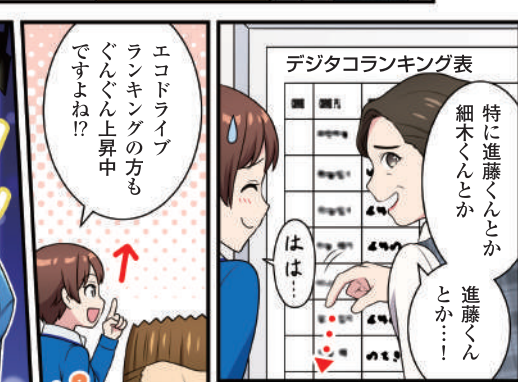
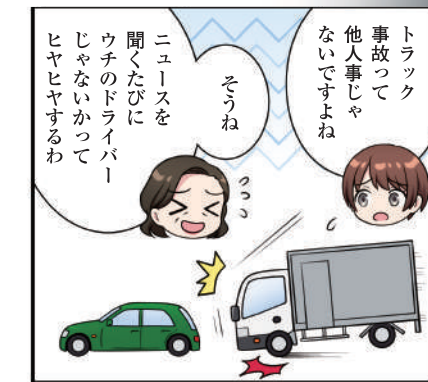
自分に甘いところは
入社時から
変わらないのね…！

トラックドライバー日記

「安全・安心」に欠かせない取り組みを、サンライズ運送に勤める
スタッフたちそれぞれのエピソードを通じて紹介。

第41話 トラックの重さは 責任の重さ

ドライバー
綾瀬 小陽(24)



過積載の危険性については
解説ページで

箱には規定量以上入っている!?

例えば農作物が入った段ボール箱。それぞれの重さは均一性がとりにくく、また生産者が購入者視点で規定量を下回らないように多めに入れ、一箱ごとの重量を少しずつ増やしている場合も考えられます。

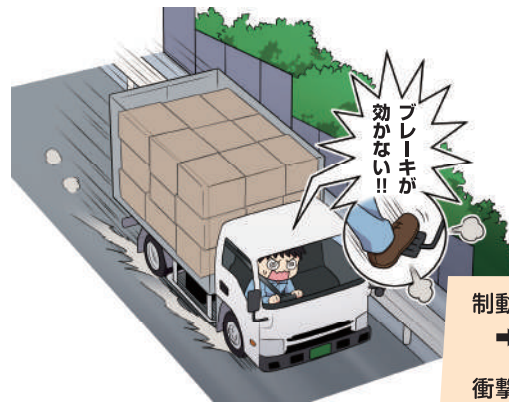


規定量以上の重さの箱が数多くあれば…。過積載にならない積載を!

マンガ制作: ad-manga.com

「NO! 過積載運行」でブレーキが利かなくなる運行を回避!

過積載運行×下り坂走行=熱でブレーキが利かないフェード現象が発生! 過積載によって運転中にブレーキが不能になってしまうと、最後は何かにつづかって停まるしかありません。



制動距離が増す
→ 追突事故の可能性が
衝撃力が増す
→ 重大事故の可能性が

漫画で学ぶ法定12項目シリーズ 「過積載の危険性」

ドライバー指導の際に義務づけられている法定12項目について、漫画と解説でポイントを紹介していきます。
今回は「過積載の危険性」です。

追突事故のダメージは「重量×速度」

トラックは重量のある貨物も載せるため、構造が頑丈で自重も重くなっています。そのため追突などの際の衝撃力は大きく、事故を起こすと被害が甚大になるとともに、ドライバーの加害責任も重くなります。積載重量を超えたトラックはさらに重くなり、それに比例して制動距離も長くなることから、ますます思うように停まらず事故の確率が「層高まる」でしょう。

追突事故発生時、相手車両に与えるダメージは「重量×速度」で決まります。そして、高速道路での追突事故は重大事故につながりやすく、それに伴い報道でも大きく扱われます。拘束時間を縮めるために利用する高速道路においても、トラックは早く着くためではなく、無事に着くことを目的とした乗り物と考えましょう。

知らず知らずのうちに過積載

過積載運行を防ぐためにも、積載重量をきちんと把握しておくことは重要です。荷台は空車の状態でも、パレットや鉄かごなどの貨物品に加え、車検証作成時の架装品に含まれていない、シートや給油した燃料の重さも積載重量に加算されます。

現代においては、お客さまから過積載運行を強いられることはないと思いますが、例えば一点物の製作物を運ぶ場合は、正確な重量が不明瞭のため不安になるかもしれません。お客さまには、積載重量を超えた状態での運転は、安全低下の観点から法律違反であること、車両や道路への損傷につながる点、騒音や振動が増すこと、近隣住民の迷惑になること、排出ガスが増すこと、地球環境への負荷が増すことなどを説明して、正確な重量を確認しましょう。

運送業界全体の努力で過積載運行は減少

今回のテーマである「過積載の危険性」について、運送業界での意図的な過積載運行による違反行為は減少し、最近では耳にしなくなりました。以前は過積載運行で検挙されても、他社もやっているのに「なぜうちだけ?」や、顧客の要望だから「断れば仕事にならない!」と反省以前に反発する声もあったようです。しかしそれは過去の話。過積載運行は、「化右運行」と化しているようです。最後に余談ですが、同じく「過」の字が付く過重時間労働についても、過積載運行と同じく、いざいざ運送業界からなくなるといいでしょう。



高柳 勝二 (たかなぎ かつふみ)

株式会社 プロデューズ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデューズ設立。中小運送会社からの依頼が多い「提案型」研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい! 眠くならない! 分かりやすい!」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度から2022年度まで国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。